



「アートウィーク東京」今年のハイライトを公開！ ランドスケープアーキテクト・戸村英子が設計する「AWT BAR」では EMMÉ・延命寺美也のフードとアーティストとのコラボカクテルを提供

一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームは、2024年11月7日（木）～10日（日）の4日間にわたり開催する「アートウィーク東京（略称：AWT）」のハイライトを公開しました。



EMMÉ・延命寺美也によるフード



アーティストとのコラボレーションカクテル
小泉明郎「Ritualistic People：祭民」

展覧会ハイライト

アートウィーク東京（AWT）は、東京における現代アートの創造性と多様性を国内外に発信する4日間のイベントです。AWTに、いわゆる「メイン会場」はありません。都内50以上の美術館・ギャラリーがそれぞれ開催する展覧会と、AWTが独自開催するプログラムを無料のシャトルバス「AWT BUS」がつなぎ、それらを自由に巡ることで東京のアートシーンの「いま」を感じられます。参加美術館・ギャラリーが開催する展覧会のハイライトをご紹介します。

美術史に名を残すアーティストたちの個展

「ルイズ・ブルジョワ展：地獄から帰ってきたところ 言っとくけど、素晴らしかったわ」
森美術館（六本木）

20世紀から21世紀にわたって活躍した最も重要なアーティストの一人、ルイズ・ブルジョワの大規模個展。日本では27年ぶりの開催となるこの個展では、約100点に及ぶ作品群を、3章構成で紹介し、その活動の全貌に迫ります。

「ジャム・セッション 石橋財団コレクション×毛利悠子—ピュシスについて」

アーティゾン美術館（京橋）



毛利悠子《《Piano Solo: Belle-Île》のためのスケッチ》2024年

2024年のヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表作家である毛利悠子を迎えて開催される同展。マルセル・デュシャンやモネなど同館のコレクションの作品と呼応する展示に注目です。

田名網敬一「記憶の冒険」、「荒川ナッシュ医
国立新美術館（六本木）

ペインティングス・アー・ポップスターズ」



田名網敬一《死と再生のドラマ》2019年
©Keiichi Tanaami/Courtesy of NANZUKA

分野横断的に制作を続けてきたポップアートの巨匠・田名網敬一と、世界中を飛び回り新たな表現を追求するパフォーマンス・アーティストの荒川ナッシュ医。国立新美術館では、ふたりの個展の贅沢な二本立てを楽しめます。

「日本現代美術私観：高橋龍太郎コレクション」

東京都現代美術館（清澄白河）

日本の現代美術を中心とするコレクションとしては世界最大級の高橋龍太郎コレクション。会田誠、加藤泉、草間彌生、鈴木ヒラク、奈良美智、村上隆など、伝説の作家から最新の若手まで総勢115組の作品が一堂に会します。

個性豊かな空間とインスタレーション

「内藤礼 生まれておいで 生きておいで」

銀座メゾンエルメスフォーラム（銀座）

その繊細なインスタレーションで知られるアーティスト、内藤礼。ガラスブロックに囲まれた空間が特徴

的な銀座メゾンエルメスフォーラムとのコラボレーションは必見です。

「渡辺志桜里展（仮）」

資生堂ギャラリー（銀座）



渡辺志桜里 《Sans room》2017年

水が循環するエコシステムを表現したインスタレーションを通じ、自然と人間の関係を見つめてきた渡辺志桜里。新作を含む個展では、資生堂ギャラリーの会場全体を使ったインスタレーションや映像作品を展示します。

「日常の再魔術化（Everyday Enchantment）小林椋、丹羽海子、ピアンカ・ボンディ」

シャネル・ネクサス・ホール（銀座）

今年20周年を迎えたシャネル・ネクサス・ホールは、新たな展覧会シリーズをスタートします。アーティストディレクターに、長谷川祐子（金沢21世紀美術館館長）を迎え、キュレーションは佳山哲巳とライアン・フィンが担当。本展ではピアンカ・ボンディ、小林椋、丹羽海子をフィーチャーします。

都内有数のギャラリーたちが魅せるアーティストの作品



束芋 《aitaitaiseijojosei》2015年



ジョナサン・モンク 《Salvo Primal Scream》2024年
©Jonathan Monk, courtesy of TARO NASU

- AWT 会期中はペインティング作品も続々と公開。ブルム（原宿）の奈良美智や小山登美夫ギャラリー（京橋）の杉戸洋といった、日本の現代美術界のスターたちの個展に注目です。

- 国内外で脚光を浴びる女性アーティストたちの作品も必見です。カイカイキキギャラリー（広尾）はタカノ綾、タケニナガワ（麻布十番）は青木陵子の個展を開催。またギャラリー小柳（銀座）では

「AWT BAR」でコラボレーションカクテルも手がける束芋の個展が開催されます。

- 海外アーティストの作品も目白押しです。タロウナス（六本木）ではジョナサン・モンクとサルヴァトーレ・マンジオーネによる展覧会を開催。また、ナンヅカアンダーグラウンド（原宿）はインドネシアのロビィ・ドゥウィ・アントノ、日動コンテンポラリーアート（六本木）はカンボジアのリム・ソクチャンリナと、アジア諸国のアーティストを紹介するギャラリーも多くあります。

※全参加施設の展覧会情報は、9月中旬頃にAWTウェブサイトにて公開予定です。

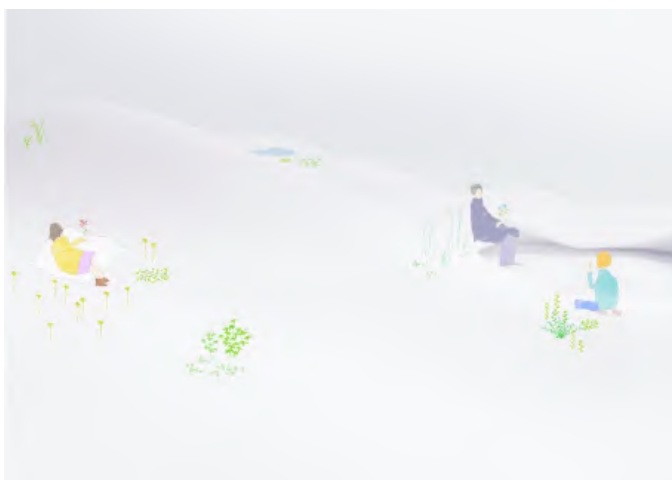
4日間限定の「AWT BAR」の詳細も公開

国内外のアートファンが集う憩いの場「AWT BAR」が、今年もAWT会期中に南青山にオープン。設計はランドスケープアーキテクトの戸村英子が担当します。テーマは「ランドスケープがつくるBAR」です。

ランドスケープは、人と自然がつくる、私たちを取り囲む風景や景色や環境のこと。自然の織りなす有機的なランドスケープが、東京都心にたたずむAWT BARという空間につくりだされます。

フードを手掛けるのは「ゴ・エ・ミヨ 2023」でベストパティシエ賞を受賞した青山「EMMÉ」の延命寺美也。食とアートをつなぐモチーフとしての「花」をイメージしてつくられた季節の一品「新ゴボウとベーコンのケーキサレ」と甘い「タタンモンブラン」を提供します。参加施設で作品を実際に鑑賞できる3名のアーティストとのコラボレーションカクテルも味わえるのも、AWT BARならではの体験です。

※それぞれのプロフィールおよびコメントは文末をご参照ください。



戸村英子による「ランドスケープがつくるBAR」の完成イメージ図
© eiko tomura landscape architects



EMMÉ・延命寺美也によるフード2種

新ゴボウとベーコンのケーキサレ（画像右）：新ゴボウと自家製のベーコンを使ったケーキサレ。新ゴボウがもつ土の香りが大地をイメージさせます。カリカリとした食感のフライドゴボウに花穂紫蘇のアクセントを添え、バラのような形に焼き上げました。

タタンモンブラン（画像左）：旬の紅玉りんごを3時間じっくり焼き上げたタルトタタンに、和栗のクリームを合わせました。クリームは花びらのように絞り上げ、秋に咲く一輪の花を表現。蝶のシガレットを添えて仕上げています。

アーティストとのコラボカクテル

荒川ナッシュ医「旅立つ秋」 国立新美術館で展覧会を開催

荒川ナッシュが大好きなポップスターの曲名を冠した、ボタニカルなブラウン・カクテル。世界のアート愛好家に向けた「旅立つ」前一杯として考案。

小泉明郎「Ritualistic People：祭民」 無人島プロダクションで展覧会を開催

「味覚の不思議」をコンセプトにした、赤い氷が特徴的なカクテル。一緒に提供されるインストラクションに沿ってカクテルを飲み進めながら、見た目や香り、味の変化をお楽しみください。（制作協力：漆原正貴）

束芋「白は怖い」 ギャラリー小柳で展覧会を開催

束芋が白という色のイメージに感じる「怖さ」を表現したミルクベースの甘いカクテル。束芋がカクテルに合わせてデザインしたコースターも数量限定で配布予定。



荒川ナッシュ医「旅立つ秋」



小泉明郎「Ritualistic People：祭民」



束芋「白は怖い」

「AWT BAR」開催概要

会場：港区南青山 5-4-30 emergence aoyama complex

会期：11月7日（木）～10日（日）

営業時間：10:00～22:30（ラストオーダー22:00）

料金：入場無料、フード1種500円、カクテル1杯1,000円

アジア的世界観から未来を考える「AWT FOCUS」

「大地と風と火と：アジアから想像する未来」

(英題：Earth, Wind, and Fire: Visions of the Future from Asia)



青木陵子《最近の3つのメモ（Jenny Holzerの言葉、Carl Andreの144個の霊、On Kawaraの起きた時間）》/《意識を6つの石に分散させるゲーム》2022年
© Ryoko Aoki, courtesy Take Ninagawa.



トーマス・ルフ《d.o.pe.07 III》2022年
© Thomas Ruff, courtesy Gallery Koyanagi.



イケムラレイコ《Stehende I, II》1991年
Courtesy the artist and ShugoArts.



ヘリ・ドノ《The Two Generals》2016年
Photo by Reynov Tri Wijaya.
© Heri Dono, courtesy Mizuma Art Gallery.



田島美加《Negative Entropy (Kurozumikyo Shinto Shrine, Dawn Meditation, Red, Hex)》〈ネガティブ・エントロピー〉より 2023年
Photo by Charles Benton. © Mika Tajima, courtesy Taro Nasu.

美術館での作品鑑賞とギャラリーでの作品購入というふたつの体験を掛け合わせた AWT の独自プログラム「AWT FOCUS」。森美術館館長や国立アトリサーチセンター長を兼任する片岡真実が監修を務める 2024 年は「大地と風と火と：アジアから想像する未来」と題し、政治や経済など人為的な分類や力による統治ではなく、自然の摂理や不可視のエネルギーといった観点から世界を見つめるアジア的世界観を起点に、多様性が共存する未来を考えます。

日本からインドネシア、韓国、台湾、フィリピン、ブラジル、香港、メキシコまで、世界各地域から 57 組のアーティストの作品を 4 つのセクションで紹介しします。国内 26 のギャラリーに加え、ソウルの Kukje Gallery、マニラ、ニューヨークに拠点を置く Silverlens、台北の TKG+ の 3 軒の海外ギャラリーも出品します。（国・地域名、ギャラリー名は 50 音順）

また、会期中は様々な年齢層の方々にお楽しみいただけるよう、子どもや学生、大人を対象としたワークショップや鑑賞ガイドツアーを実施。お子様連れの方は、会場内に開設される託児所もご利用いただけます。

※出展作家リスト、監修者プロフィールおよびステートメントは文末をご参照ください。

「AWT FOCUS」開催概要

会場：港区虎ノ門 2-10-3 大倉集古館 1・2 階

会期：11 月 7 日（木）～11 月 10 日（日）

開場時間：10:00～18:00（最終入場 17:30）

料金：一般有料、学生・子ども無料

※ 9 月頃にオンラインチケットを販売開始予定。

主催：一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム

特別協力：公益財団法人 大倉文化財団 大倉集古館

※ 本展に関しての大倉集古館へのお問い合わせはお控えください。

「AWT VIDEO」には世界各地域から 13 組のアーティストが参加

「飛行機雲か山脈か」

（英題：Between Contrail and Mountains）

「AWT VIDEO」は、海外を拠点に活躍するキュレーターがアートウィーク東京（AWT）参加ギャラリーのアーティストの映像作品を厳選して上映するビデオプログラムです。出入り自由なパブリックスペースの特設会場で、誰でも無料で作品を鑑賞できます。2024 年はニューヨークのスカulptチャーセンターのディレクターを務めるソフラブ・モヘビが監修。「飛行機雲か山脈か」と題し、13 組のアーティストによる 14 作品を上映します。

※出展作家リスト、監修者プロフィールおよびステートメントは文末をご参照ください。



加藤翼《Break it Before it's Broken》2015年
© Tsubasa Kato, courtesy the artist and Mujin-to Production.



三宅砂織《Seascape (Suzu) 2》2024年



蜷川実花 with EiM《胡蝶》2024年
© Mika Ninagawa, courtesy Tomio Koyama Gallery.

「AWT VIDEO」開催概要

会場：千代田区丸の内 1-3-2 三井住友銀行東館 1F アース・ガーデン

会期：11月7日（木）～ 11月10日（日）

開場時間：10:00～18:00

料金：無料

「AWT TALKS」

会期前から会期中にかけては「AWT TALKS」と題し、初心者からコレクターなどのアート通まで幅広い層に向けたシンポジウムやオンライントークを開催。国内外のキュレーターや思想家を招いた議論を通じて、業界の最前線のトピックや課題、歴史を深く伝えるほか、これからコレクターを目指す人に向けたガイドツアーやセミナー、子どもや若年層が対象のアートエデュケーションプログラムも実施します。また、キュレーターを対象とするラウンドテーブルでは、国内外のキュレーターが集い、現代アートをめぐる目下の重要な課題について率直に意見を交換します。

シンポジウム

「^{他者を想像する}想像する他者：現代アートが描く国境を超えた未来」

(英題：Imagining Others: Transnational Visions of Contemporary Art)

毎年多様なバックグラウンドをもつゲストを迎え、現代社会におけるアートの位置づけや批評的アプローチについて議論するシンポジウム。今年は「^{他者を想像する}想像する他者：現代アートが描く国境を超えた未来」と題して開催します。基調講演のスピーカーは、「Foreigners Everywhere (どこにでもいる外国人)」というテーマのもと今年4月から開催中の第60回ヴェネチア・ビエンナーレのキュレーター、アドリアーノ・ペドロサ。また、それぞれAWT FOCUSとAWT VIDEOの監修を務める片岡真実、ソフラブ・モヘビを登壇者に迎え議論を交わします。

※各登壇者のプロフィールは文末をご参照ください。

会場：慶應義塾大学 三田キャンパス 西校舎ホール

日程：11月7日(木) 10:00~12:30 (9:30 開場)

料金：参加無料、事前申込制

共催：慶應義塾大学アート・センター、慶應義塾ミュージアム・commons

※参加の受付はオンラインにて9月頃を予定。

※シンポジウムと同日にラウンドテーブルを事前申込制・非公開で実施。

オンライントーク

AWTでは、アーティストや美術史家、キュレーター、批評家、クリエイターなど、各分野の第一線で活躍する専門家らによるレクチャーやディスカッションをオンラインで配信しています。2024年は村上隆と大竹伸朗によるトークが公開されているほか、毛利悠子とミン・ウォンによるトークと美術史学者の中嶋泉によるレクチャーを順次配信予定。YouTubeチャンネルから過去のアーカイブも含めてどなたでも無料で視聴できます。

2024年ラインナップ

- ①【公開中】村上隆×大竹伸朗「スタジオとしての東京」
- ②【9月下旬公開予定】毛利悠子×ミン・ウォン「東京、そしてその先へ：芸術活動における文化的翻訳とは」
- ③【10月下旬公開予定】中嶋泉「続アンチ・アクション：戦後日本女性アーティストの革新とは？」

これまで公開されているオンライントークはこちらからご覧ください：

<https://www.artweektokyo.com/talks/>

無料シャトルバス「AWT BUS」、全6ルートが決定！

「AWT BUS」は東京のアートシーンを代表する50以上のアートスペースとAWTプログラムをつなぐ無料のシャトルバスです。今年は6つのルートを通じ、大型美術館が立ち並ぶ六本木エリアや老舗ギャラリーがひしめく銀座エリア、新進ギャラリーやアーティスト・ラン・スペースが点在する池袋エリアや東東京エリアなど、東京各地のアートスペースを巡ります。シャトルバスは午前10時から午後6時まで約15分おきに巡回。どの停留所からでも乗り降りは自由です。



東京都庭園美術館

各ルートの巡回施設

A ルート

東京国立近代美術館（竹橋）／ミヅマアートギャラリー（飯田橋）／ウェイティングルーム（江戸川橋）／タリオンギャラリー（目白）／ファイギュア、ミサコ&ローゼン（大塚）／XYZ コレクティブ（巣鴨）／カヨコユウキ（駒込）／スカイザバスハウス（根津）

B ルート

AWT VIDEO（三井住友銀行東館、大手町）／東京国立近代美術館（竹橋）／タグチファインアート（三越前）／無人島プロダクション（錦糸町）／カナカワニシギャラリー（清澄白河）／東京都現代美術館（清澄白河）／ハギワラプロジェクト（清澄白河）／アーティゾン美術館、小山登美夫ギャラリー（京橋）／ギャラリー小柳、シャネル・ネクサス・ホール（銀座）／銀座メゾンエルメス フォーラム（銀座）／東京画廊+BTAP、資生堂ギャラリー（銀座）

C ルート

AWT FOCUS（大倉集古館、虎ノ門）／PGI（麻布十番）／タケニナガワ（麻布十番）／カイカイキキギャラリー（広尾）／MEM（恵比寿）／東京都写真美術館（恵比寿）／ポエティック・スケープ（中目黒）／リーサヤ（目黒）／タクロウソメヤコンテンポラリーアート、コウサクカネチカ（天王洲）／東京都庭園美術館（目黒）／ミサシギャラリー（広尾）／ペース（麻布台）

D ルート

AWT BAR（表参道）／プラダ 青山店、ファーガス・マカフリー（表参道）／ワタリウム美術館（外苑前）／ケンナカハシ（新宿）／東京オペラシティ アートギャラリー（初台）／ギャラリー38（原宿）／ナンヅカアンダーグラウンド（原宿）／ブラム（原宿）／国立新美術館、日動コンテンポラリーアート（六本木）／森美術館（六本木）／スノーコンテンポラリー（六本木）

E ルート（AWT FOCUS→六本木方面）

AWT FOCUS（大倉集古館、虎ノ門）／オオタファインアーツ、コタロウヌカガ、シュウゴアーツ、タカ・イシイギャラリー、タロウナス、ペロタン東京、ユタカキクタケギャラリー、ユミコチバアソシエイツ（六本木）／AWT BAR（表参道）

F ルート（AWT FOCUS→日本橋方面）

AWT FOCUS（大倉集古館、虎ノ門）／AWT VIDEO（三井住友銀行東館、大手町）

「AWT BUS」 概要

会期：2024年11月7日（木）～11月10日（日）

時間：10:00～18:00

料金：無料

- 各バス停を約15分間隔で巡回
- 施設によりバス運行時間と営業時間が異なる場合があります。最新の営業時間は各施設の公式サイトでご確認ください。
- ご利用の際には、各日の乗車日に各バス停または参加美術館に常駐しているAWTスタッフから参加証をお受取りください。
- AWT参加証の提示により参加美術館の一部展覧会を割引料金で観覧できます。

※バス停や参加施設の詳細な位置情報はAWT公式サイトにてご確認ください。

<https://www.artweektokyo.com/map/>

関係者プロフィールおよびステートメント

AWT BAR

設計：戸村英子

コメント

当たり前のように存在し、便利で使いやすい機能の集合体によってつくられた私たちの生活や街。そんな機能で埋め尽くされた都市の中にも、ひっそりとランドスケープは存在しています。東京南青山という都会の中心に位置するこの場所にも、うねる大地や地下を流れる川、どこまでも高い空、季節や天候によって表情を変える植物たちが、確かにたたずんでいるのです。そんな、いつもは見えないけれど確かにそこにある、隠れた小さな自然を集め、有機的なランドスケープをつくり出します。

「ランドスケープがつくる BAR」には、適度な高さの椅子やテーブル、平らな床と天井、垂直な壁は存在しません。様々な高さの地形がテーブルとなり、椅子となり、小さな部屋となり、お皿となり、そして景色となります。ランドスケープがつくる多様な時間や空間のスケールが、新しい BAR での過ごし方を私たちに提供してくれます。人が、ランドスケープという空間に身を置いたとき、丘を登り、木の実を採り、花を摘み、葉に落ちた水滴を汲み、ブランケットを広げて寝ころびながら景色を楽しむ。動物や植物たちが自然の中で自由に居場所をつくり、餌を蓄え、昼寝をするように、私たちもまた、AWT BAR というランドスケープの中で自分の居場所を見つけ、お酒を楽しみ、人との会話を楽しむことができるのです。

このうねった大地のような凹凸のある有機的な形は、空間に連続性と奥行きをつくり、景色を構成する要素となります。都市に隠れたランドスケープが、建築空間に大きく広がり、新しい景色をつくり、新しい人々と関わりを持ち始めます。それは、ランドスケープ的な空間の使い方、過ごし方へとつながっていきます。この可視化された有機的なランドスケープが人と関わり、街の一部となり、静かに、そして隠れたランドスケープにつながっていきます。



戸村英子（とむら えいこ）

1978年東京生まれ。ペンシルバニア大学大学院ではランドスケープアーキテクチャを学ぶ。大学院卒業後はWRT（アメリカ）、Mosbach Paysagistes（フランス）、石上純也建築設計事務所（日本）に設計スタッフとして勤務。Mosbach Paysagistesではルーヴル・ランスや台中中央公園、石上純也建築設計事務所では栃木県那須の水庭などを担当。2017年に戸村英子設計事務所を設立し、屋内外やスケールを問わず、国内外でさまざまな設計を手がける。ロンドンのランドスケーププロジェクトであるカムデン・ハイラインやチェコのエネルギー会社ZEVOによるエネルギーパークなどの国際コンペティションでファイナリスト選出。また、杉本博司のもとではハーシュホーン博物館と彫刻の庭（ワシントンDC）の植栽設計を担当。2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）では、展示施設のひとつで中庭の設計や台湾のプロジェクトを手掛ける。23年度に工学院大学准教授に着任。

フード：延命寺美也

コメント

食とアートをつなぐモチーフとして、「花」をイメージしました。美しい花は、季節や気候を表現する自然のアート。私自身も幼少期は自然に触れて育ってきました。その景色や記憶をもとに、自然な美しさ、おいしさを表現するように心掛けています。「新ゴボウとベーコンのケーキサレ」は、土が香るゴボウとスモーキーな自家製ベーコンに花穂紫蘇（はなほじそ）のアクセントを添えた季節の一品。「タタンモンブラン」は、旬の紅玉りんごを3時間じっくり焼き上げることで旨みを引き出し、和栗のクリームを花びらのようにあしらった甘い一品です。



延命寺美也（えんめいじ みや）

1987年京都生まれ。辻製菓専門学校を卒業後、同フランス校へ進学。帰国後は都内のパティスリーやレストランで腕を磨き、レストラン「ツキ・シュール・ラ・メール」やミシュラン一つ星「ラチュレ」でシェフパティシエールを務める。2019年にソムリエの夫と共に「EMMÉ」をオープン。23年にはレストランガイド「ゴ・エ・ミヨ」のベストパティシエ賞を受賞。食材や既存の枠にとらわれない、香り豊かで日本の四季やフランスの伝統を感じるデザートを手がけてきた。フルーツに限らず、野菜やフォアグラなどを使用したスペシャリテなど、色彩香るデザートを提供している。

カクテル

※アーティストによるカクテルのコンセプトは順次公開予定です。



Photo by Ricardo Nagaoka

荒川ナッシュ医（あらかわなっしゅ えい）

1977年福島県生まれ。ロサンゼルスを拠点に活動。パフォーマンス・アートと社会、パフォーマンスなものとその歴史に関して独自の発想をシリーズごとにLED絵画として発表。個人主義を基盤とした現代美術において、荒川ナッシュのパフォーマンスは、他の作家、または観客との共同作業の交差する場となり続け、「作家＝私」という主体の檻から解放された状態を維持しようと試みている。2024年10月30日より国立新美術館（東京）にて個展を開催する。主な展覧会として、テート・モダン（2021年）、アーティスト・スペース（2021年）、ミュンスター彫刻プロジェクト（2017年）、ベルリン・ビエンナーレ（2016年）、光州ビエンナーレ（2014年）、ホイットニー・ビエンナーレ（2014年）など。ロサンゼルス・パサデナのアート・センター・カレッジ・オブ・デザイン、大学院アート学科教授。



Photo by Toru Yokota

小泉明郎 (こいずみ めいろう)

1976年群馬県生まれ。国家と個人、人間の身体と感情、テクノロジーと人類の未来の関係を探求する大規模な映像インスタレーション作品やVR作品を国内外の美術館や国際展で発表し続けている。2021年には文化庁メディア芸術祭美術部門大賞受賞。さらに世界的な美術賞であるイギリスの「Artes Mundi」賞を日本人として初めて受賞。作品はニューヨーク近代美術館（MoMA）やテートモダンなど世界各地の美術館に収蔵されている。主な個展にアメリカのペレス美術館での「Battlelands」（2018年）、メキシコシティ近代美術館（MUAC）での「Portrait of a Failed Silence」（2015年）、アーツ前橋での「捕われた声は静寂の夢を見る」（2015年）、ニューヨーク近代美術館での「Project Series 99: Meiro Koizumi」（2013年）など。



束芋 (たばいも)

手書きドローイングと日本の伝統的な木版画を思わせる色彩を用いたアニメーション・インスタレーションで知られるアーティスト。現代日本社会に潜む問題をシュールでシニカルに表現する。第54回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展（2011年）に日本代表として参加。2006年のイスラエルのバットシェバ・ダンス・カンパニーのオハッド・ナハリンとのコラボレーションを皮切りに、様々な舞台コラボレーションに取り組んでいる。16年には映像芝居「錆からでた実」（東京芸術劇場 シアターイースト公演）を舞踊家・森下真樹と共同演出。この舞台作品は、20年に米国4都市を巡回した。22年サーカスアーティストのヨルグ・ミュラーとのコラボレーション作品「もつれる水滴」を世界初演として日本ツアーを行い、フランス4都市を巡るツアーを実施。23年にはコペンハーゲンのKunstforeningen GL STRANDにて大規模個展が開催された。今秋にはギャラリー小柳での個展を予定している。

AWT FOCUS

監修：片岡真実

ステートメント

世界各地で分断や衝突が起こり、気候危機が確実に深刻化するなか、現代アート界では世界の多様なアイデンティティや文化にも注目が集まっています。こうした状況から、次のフェーズにどのような未来を想像することができるのでしょうか。異なる価値観が多様なままに共存することは可能なのでしょうか。時代が求めるアートの存在意義とは何でしょうか。正解のない問いは尽きませんが、この彷徨の時代に、太古から我々を存在させてきた自然の摂理や不可視のエネルギーという観点から、世界を俯瞰してみたいと考えています。

アジアの様々な思想や信仰においては、大宇宙としてのコスモスと小宇宙としての身体の融合、宇宙の五大要素の流動的均衡、大地や自然現象に宿る精霊など、世界の全体像はダイナミックな感性や叡知によって想像されてきました。こうした視座は政治や経済など人為的な分類や力によって支配される世界ではなく、物理、化学、天文、地質といった観点から見る世界、さらには科学を超越した世界へ目を向けさせてくれます。

AWT FOCUS「大地と風と火と：アジアから想像する未来」では、大地、風、火、水、木など森羅万象を構成する要素と、その循環を生む不可視のエネルギーやその表象に注目し、世界への眼差しをアジアから多様な文化に拡張します。展覧会が開催される大倉集古館は現存する日本最古の私立美術館であり、その建築は中国やインド、オスマン帝国、欧米などを歴遊した伊東忠太が、当時いかに世界文明を意識したのかを想像させます。空想上の幻獣や獅子、龍が見守る空間で、作品相互から生み出される文化的対話や連鎖、連続性を感じ、この宇宙を生きて来た人類の感性や想像力に、国境や文化を越えて想いを馳せてみたいと思っています。



Photo by Akinori Ito

片岡真実 (かたおか まみ)

森美術館館長、国立アトリサーチセンター長。アートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員。ニッセイ基礎研究所都市開発部、東京オペラシティ アートギャラリー・チーフキュレーターを経て、2003年より森美術館、20年より現職。23年4月より国立アトリサーチセンター長を兼務。07から09年にはロンドンのヘイワード・ギャラリーでインターナショナル・キュレーターを務めたほか、12年の第9回光州ビエンナーレ（共同）や18年の第21回シドニー・ビエンナーレ、22年の国際芸術祭「あいち2022」などで芸術監督を務める。CIMAM（国際美術館会議）では14年から22年まで理事、20年から22年は会長。文化庁文化審議会文化経済部会、博物館部会、東京都芸術文化評議会等、委員および審査員等多数。

AWT FOCUS セクション構成・出展作家（姓の和文 50 音順）

1. 宇宙の構造

青木陵子／赤松音呂／ポクロン・アナディン／上田勇児／キム・テクサン／桑田卓郎／笹本晃／菅木志雄／アルベルト・ヨナタン・セティアワン／田島美加／ホセ・ダヴィラ／崔在銀／ツァイ・チャウエイ（蔡佳葳）／戸谷成雄／八田豊／フランシス真悟／ソランジュ・ペソア／前田常作／松井紫朗／宮永理吉（三代東山）／宮本和子／向山喜章／トーマス・ルフ

《護摩壇図》《方格規矩四神鏡》特別出陳（大倉集古館所蔵品）

2. 手、身体、祈り

ブスイ・アジョウ／イー・イラン／イケムラレイコ／沖瀾子／小林万里子／西條茜／アーリーン・シェ
ケット／墓原蓉子／土肥美穂／廣直高／リンダ・ベンギリス／ヤン・ヘギュ

3. 見えない力

新井卓／安藤晶子／金子富之／川田喜久治／米谷健+ジュリア／アレキサンダー・トヴボルグ／ヘリ・
ドノ

4. 自然界の循環とエネルギー

植松永次／表良樹／篠田太郎／菅木志雄／ローラン・グラッソ／シュシ・スライマン／中井波花／タロ
イ・ハウィニ／原田裕規／ソピアップ・ピッチ／藤倉麻子／マリーナ・ペレス・シマオ／ミット・ジャ
イイン／十三代三輪休雪／吉増剛造／リー・キット

《古丹波壺》特別出陳（大倉集古館所蔵品）

※出展作家、構成は今後変更の可能性あります。

AWT VIDEO

監修：ソフラブ・モヘビ

ステートメント

飛行機雲か山脈か

積雲の時間と墓地の時間はどのように交わるのか？あるいは芍薬の時間と溶岩の時間は？儀式や慣習は、時間やその集団的体験に形を与え、一時的に同調させる装置である。それは人間の時間と宇宙の時間との横断を可能にし、皮膚と星々を、思考と巨礫とを結びつける。デジタル化された時間は、私たちの時間体験を解体する。そうして生み出された共存する時間性は、様々な経路を通じて消え去り、絶えずわずかな同期のずれをつくり出す（海景の一瞬、冠水した村落の一瞬、クリームブリュレの一瞬、爆弾跡の一瞬……）。他方、人間活動の大半を回すために採掘した、先史時代より堆積する生体物質を燃焼することへの過度の依存は、不確かな未来を描き出し、現在生きているすべての生命体を危険に晒している。ばらばらに解体された現在やその不安定な時間性は、「共にある」ための儀式や長く続いてきた様式を断絶すると同時に集団性の新しい形式を想像させる。

本年の AWT VIDEO は、アートを存在のための儀式を移行する場としてだけでなく、新たな共存のための形態を模索する場としても考えていく。「飛行機雲か山脈か」と尋ねる者がいた。同一のカテゴリーに属さない比較困難に見える問いだが、何よりもまず、それは本プログラムの作品群が刻む時間の風景の崩壊を物語るものである。それはどこか詩人のレイ・アーメントラウトが「Simply」（『Go Figure』、2024年）で問うたものに似ていなくもない。「最古の祖先は／加速者だった。／彼らは変化を食した。／私たちはどうなるのだろうか？」



Photo by Julian Abraham "Togar"

ソフラブ・モヘビ

スカルプチャーセンター（ニューヨーク）ディレクター。第58回カーネギー・インターナショナル（2022-23年、ピッツバーグ）Kathe and Jim Patrinosキュレーター。テヘラン大学写真学科で学士号を取得後、バード大学センター・フォー・キュラトリアル・スタディーズで修士課程を修了。スカルプチャーセンターでは18年から20年までキュレーター、20年から21年までキュレーター・アット・ラーズを務めたのち、現職。

AWT VIDEO 出展作家（姓の和文 50 音順）

岩根愛／加藤翼／エドガー・カレル／笹本晃／ティシャン・スー／ティントン・チャン（張碩尹）／
蜷川実花 with EiM／野沢裕／廣直高／三宅砂織／山本篤／吉増剛造／ミルジョーン・ルペルト

AWT TALKS

シンポジウム基調講演者：アドリアーノ・ペドロサ



Photo by Mauricio Jorge

アドリアーノ・ペドロサ

2014年よりサンパウロ・アシス・シャトーブリアン美術館アーティスティック・ディレクター。第60回ヴェニス・ビエンナーレ（2024年）キュレーター。第24回サンパウロ・ビエンナーレ（1998年）の非常勤キュレーター、InSite_05（サンディエゴ、ティファナ、2005年）のキュレーター、第27回サンパウロ・ビエンナーレ（2006年）のコ・キュレーター、第2回トリエンナーレ・デ・サンファン（2009年）のアーティスティックディレクター、第31回パノラマ・デ・アルテ・ブラジリア - マモンヤグアラ・オバ・マモ・パペ（サンパウロ近代美術館、2009年）のキュレーターを務める。2023年には、バード・カレッジからオードリー・イルマス賞（優秀キュレーター賞）を受賞。

開催概要

アートウィーク東京について

アートウィーク東京（AWT）は、東京における現代アートの創造性と多様性を国内外に発信する年に一度のイベントです。東京を代表する 50 以上の美術館・ギャラリーがそれぞれ多様な展覧会と共に参加者を迎え、各施設を無料のシャトルバス「AWT BUS」が繋がります。

また会期中は「買える展覧会」である「AWT FOCUS」や映像作品プログラム「AWT VIDEO」、建築×食×アートのコラボレーションを感じられる特設の「AWT BAR」など、AWT 独自の企画も開催。様々な体験を通じて東京のアートの「いま」を感じられる 4 日間です。

アートウィーク東京

名称：アートウィーク東京（欧文：Art Week Tokyo、略称：AWT）
会期：2024 年 11月7日（木）～11月10日（日）（4日間） 10:00～18:00
会場：都内 53 の美術館／インスティテューション／ギャラリー
AWT FOCUS、AWT BAR ほか各プログラム会場
主催：一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム
提携：アートバーゼル（Art Basel）
特別協力：文化庁

アートウィーク東京モバイルプロジェクト

名称：アートウィーク東京モバイルプロジェクト
会期：2024 年 11月7日（木）～11月10日（日）（4日間） 10:00～18:00
主催：東京都／アートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会

料金

AWT BUS の乗車無料。

参加ギャラリーの入場無料。参加美術館では AWT 会期中に限り所定の展覧会にて AWT 特別割引適用。AWT FOCUS の入場一般有料（金額未定）、学生・子供無料。

公式サイト <https://www.artweektokyo.com/>
Instagram [@artweektokyo](#)
Facebook [@artweektokyo](#)
X [@ArtWeekTokyo](#)
YouTube [@artweektokyo6594](#)

「アートウィーク東京」運営体制概要

アートウィーク東京は、アートバーゼルとの提携および文化庁の協力を受け、一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォームが主催します。また、都内のアートアクティビティーの体験を創出する「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」を、東京都とアートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会の主催により実施します。

「アートウィーク東京モバイルプロジェクト」概要

東京都とアートウィーク東京モバイルプロジェクト実行委員会が主催。アートウィーク東京の会期中に都内各地に広がる主要なアートスペースをつなぐ「AWT BUS」を運行するほか、会期前から会期中にかけて子どもや若者、アートコレクターを目指す方などを対象とするプログラムの展開や、国内外のキュレーターを招聘したシンポジウムなどを通じて、幅広い鑑賞者層に対してアートアクティビティーの体験機会を創出。国内のアートに対する関心の裾野拡大を目指します。実行委員は、小川秀司（東京都現代美術館副館長）、片岡真実（森美術館館長）、小松弥生（東京国立近代美術館館長）、塩見有子（NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT] 理事長、蜷川敦子（アートウィーク東京ディレクター／一般社団法人コンテンポラリーアートプラットフォーム代表理事）。

「アートバーゼル」概要

世界最高の規模と質を誇る近現代美術のアートフェア「アートバーゼル」。毎年、拠点となるスイスのバーゼルをはじめ、香港、マイアミビーチ（アメリカ）、パリで開かれるアートフェアには、世界各地から大勢のアートファンや専門家が集まる。（公式サイト：<https://www.artbasel.com/>）

<報道関係のお問い合わせ>

アートウィーク東京 PR 事務局（WAG, Inc）

担当：会津・芳賀・林

TEL：03-5791-1500

Email：awt_pr@wag-inc.co.jp

参考資料：アートウィーク東京 バスルート

※バス停や参加施設の詳しい位置情報は AWT 公式サイトにてご確認ください。

<https://www.artweektokyo.com/map/>

Aルート			
A1	B2	東京国立近代美術館	竹橋
A2		ミヅマアートギャラリー	飯田橋
A3		ウェディングルーム	江戸川橋
A4		タリオンギャラリー	目白
A5		フィギュア/ミサコ&ローゼン	大塚
A6		XYZコレクティブ	巣鴨
A7		カヨコユキ	駒込
A8		スカイザバスハウス	根津

Bルート			
B1	F2	AWT VIDEO (三井住友銀行東館)	大手町
B2	A1	東京国立近代美術館	竹橋
B3		タグチファインアート	三越前
B4		無人島プロダクション	錦糸町
B5		カナカワニシギャラリー	清澄白河
B6		東京都現代美術館	清澄白河
B7		ハギワラプロジェクト	清澄白河
B8	B13	日本橋交差点 (B8=B13乗り換え地点)	日本橋
B9		アーティゾン美術館/小山登美夫ギャラリー	京橋
B10		ギャラリー小柳/シャネル・ネクスス・ホール	銀座
B11		銀座メゾンエルメス フォーラム	銀座
B12		東京画廊+BTAP/資生堂ギャラリー	銀座
B13	B8	日本橋交差点 (B13=B8乗り換え地点)	日本橋

Cルート				
C1	E1	F1	AWT FOCUS (大倉集古館)	虎ノ門
C2			PGI	麻布十番
C3			タケノナガワ	麻布十番
C4			カイカイキキギャラリー	広尾
C5	C12		天現寺橋交差点 (C5=C12乗り換え地点)	広尾
C6			MEM	恵比寿
C7			東京都写真美術館	恵比寿
C8			ポエティック・スケープ	中目黒
C9			リーサヤ	目黒
C10			タクロウメヤコンテンポラリーアート/コウサクカネチカ	天王洲
C11			東京都庭園美術館	目黒
C12	C5		天現寺橋交差点 (C12=C5乗り換え地点)	広尾
C13			ミサシンギャラリー	広尾
C14			ベース	麻布台

Dルート				
D1	D9	E3	AWT BAR	表参道
D2			ブラダ 青山店/ファーガス・マカフリー	表参道
D3			ワタリウム美術館	外苑前
D4			ケンナカハシ	新宿
D5			東京オペラシティ アートギャラリー	初台
D6			ギャラリー38	原宿
D7			ナンゾカアンダーグラウンド	原宿
D8			ブラム	原宿
D9	D1	E3	AWT BAR	表参道
D10			国立新美術館/日動コンテンポラリーアート	六本木
D11			森美術館	六本木
D12			スノココンテンポラリー	六本木

Eルート (AWT FOCUS 表参道方面)				
E1	C1	F1	AWT FOCUS (大倉集古館)	虎ノ門
E2	E4		オオタファインアーツ/コタロウスカガ/シュゴアーツ/ タカ・イシイギャラリー/タロウナス/ペロタン東京/ ユタカキタケギャラリー/ユミコチバアンシエイツ	六本木
E3	D1	D9	AWT BAR	表参道
E4	E2		オオタファインアーツ/コタロウスカガ/シュゴアーツ/ タカ・イシイギャラリー/タロウナス/ペロタン東京/ ユタカキタケギャラリー/ユミコチバアンシエイツ	六本木

Fルート (AWT FOCUS 大手町方面)				
F1	C1	E1	AWT FOCUS (大倉集古館)	虎ノ門
F2	B1		AWT VIDEO (三井住友銀行東館)	大手町

